

# 履修のコツ

## 私の時間割

「そもそも興味ある学類とかまだ分からない…」という人も多いと思いますが、**全ての学類の応募要件を満たすのは、恐らく不可能**です。どの学類を目指すかにもよりますが、**春季ガイダンスや履修相談等を通じて、履修登録までに移行希望先は多くても4つか5つまでに絞るのをお勧め**します。

さて、移行希望先を絞って、応募要件や重点科目を把握したら、とうとう時間割を組むことになります。その際、「本当に移行最低点を超えられるのかな」と心配になることがあるかもしれません。以下の内容はそんな時に役立ててもらえると嬉しいです。今回、参照するのは秋学期の時間割ですが、春学期の履修を組むのにも役立つ情報を載せたつもりなので、要必見です。

	通常	特殊	秋B	現在の学期	
	月	火	水	木	金
1 8:40 / 9:55	言語分析 入門	障害科学II	English Presentatio Skills II CA503		基礎体育 ソフトボ ール(秋) 野球場,多...
2 10:10 / 11:25	知識情報 概論	障害科学II			
3 12:15 / 13:30	基礎中国 語AII 1B203	データサ イエンス 3C104		先端文化 学概論 2B411	国際学III
4 13:45 / 15:00	English Reading Skills II CA304	データサ イエンス 3C104		日本研究 概論I 2B507	英米・ヨ ーロッパ 領域比較 文化研究
5 15:15 / 16:30	国語II 1B408	システム と情報科 学	みんなで 創ろう 「つくば アクション プロジ	文化科学 領域比較 文化研究	コンテン ツ入門
6 16:45 / 18:00		システム と情報科 学	筑波大学 特別講義 一大学と 学問一	日本語学 概論-b	コンテン ツ入門

上の画像が私の秋Bモジュールの時間割です。以降は、画像内にある授業について成績評価方法や授業形態に触れつつも、それに関して履修を組む際に参考になるコラムを綴っていこうと思います。

## 〈必修科目〉

まずは必修科目(以下、必修)について触れようと思います。(必修についてのコラムは多くを「[総合生のための履修登録ガイド](#)」という記事に載せていますので、気になる場合はそちらをチェックしてください)「第1外国語(英語)」「情報」「体育」が文理問わず必修科目である一方、「初修外国語」(以下、2外)、「国語」は文系の学類で必修になることが多い授業となります。総合学域群の学生(以下、総合生)が必修科目で注意すべき点は、**2外と体育を除いた全ての科目が移行点に算入不可能**ということです。なので、学類に直接入学してきた学生(以下、学類生)が「必修だけは得単しなきゃ!」とあくせくしている横で、総合生で怠惰な人は必修の優先度が下がりがちです。

### □English Reading Skills2(以下、ERS2)、English Presentation Skills 2(以下、EPS2)

○単位数：それぞれ1.0

○担当教員：それぞれ長谷部 邦子、山口 有梨沙

○成績評価方法：授業参加の積極性30% + 試験等70%

○私の成績点：それぞれ69C、65C

○レビュー：

本人の希望が介在する余地なしに、入学直後に受験するTOEIC IPテストのスコアと所属クラスによって担当教員が決まるので、詳しいレビューは割愛します。しかし、どちらの授業もめっちゃ負担軽かったです…この先生達に担当して貰える学生はラッキー!ですが、移行点に含められない都合から、私は可能な限り低コストで得単したかったので、成績点は低めです…。

○お役立ち情報：ERS, EPSの再履修について

こちらも「[総合生のための履修登録ガイド](#)」の記事で詳しく触れられています。そちらをご覧ください。

### □データサイエンス：2単位

### □国語2：1単位

(所属クラスによって担当教員が決まるので割愛)

## □基礎体育ソフトボール(秋)

○単位数：0.5

○担当教員：奈良 隆章

○成績評価方法：技能35% + 知識・理解30% + 態度・意欲35%

○私の成績点：91A+

○レビュー：

運動量は少なくはないですが、運動音痴の私でも活躍の場を与えられていたし、そこで成果を出せなくても精力的に取り組めばしっかり評価して貰えました。しかし、成績点を稼ぎたかった私にとっては成績評価方法が初回授業時に定量的に説明して貰えたのが何気に1番、嬉しかったです。あまり先生の裁量が介入する余地が少なかった成績評価方法だったと思うので、当時安堵したのを覚えています。体育は0.5単位と、移行点への貢献度が他授業に比べて1/2になってしまうのが難点ですが、少しでも移行点を上げたい一心でした。

○お役立ち情報：筑波大学の体育について

「[総合生のための履修登録ガイド](#)」という記事で詳しく触れられているので、そちらをご覧ください。

## □基礎中国語A2

○単位数：1.0

○担当教員：陳 玥

○成績評価方法：小テストの点数と普段の授業への取り組み

○私の成績点：78B

○レビュー：

中国語の単位習得難易度は日本人の先生が担当される授業以外は比較的、高くないと言われています。本授業も例に漏れずそうだと思いますが、特に期末テストや期末レポートがないのは嬉しかったです。しかし、これは中国語以外の授業でも当てはまりますが、授業内で発話をする回数は多く、高校時代、ALTの先生の授業が苦手だった人は大変かも。

## ○お役立ち情報：筑波大学で開講されている2外の概観

筑波大学では、2外として「ドイツ語」「フランス語」「スペイン語」「ロシア語」「中国語」「韓国語」が開講されています。この中から履修する言語を1つ選び、その言語で指定された授業を1年次に3単位、2年次に1単位習得することで必修科目としての2外はクリアです。2外は人文・文化学群、社会・国際学群、人間学群で必修となっていますが、他の学群では、2外を履修しなくても大丈夫です。

2外を履修するうえで注意が必要なのは、必修の授業は春学期開講の「基礎〇〇語A1」「基礎〇〇語B1」と、秋学期開講の「基礎〇〇語A2」、2年が標準履修年次として春学期に開講される「〇〇語圏の言語と文化A」の4つです。似たような名前の授業で「基礎〇〇語B2」、「〇〇語圏の言語と文化B」という授業もありますが、どちらも必修ではありません。

また、1単位につき10コマ開講されている授業が大半なところ、必修科目の2外は1単位で15コマ(※ABCモジュール通して開講される)の授業が設けられています。(※皆さんが入学する年度は違うかもしれませんが)私はこれを知った時、他の科目に比べて成績点を上げるコスパが悪いなあと感じてしまいました。しかし、最初はやる気があったお陰か、B評価までは行きました。2外は英語と違って、移行点に参入することができます。

最後に2外の選び方ですが、特に人文系に移行したい学生は、専攻によっては英語以外の外国語文献を読むことにもなり得るので、2外の選択は慎重に行うのを勧めします。例えば、人文に移行して哲学を学びたいと思っている人は、原典がドイツ語かフランス語であることが多いので、この2つを履修するのが王道とはされています。しかし、宗教地理学を学びたいと思っていた私も、地理学と関連が深いフランス語やドイツ語を取らず、友人に中国語話者がいるというだけで中国語を履修することにしました。2年生になりましたが別に困った覚えはありません。

2外の偏見ですが、ドイツ語やフランス語はやはり、様々な学問領域に関連が深いせいか、履修している人は総じて「真面目だなあ…」という印象を受けます。中国語は拼音(ピンイン)さえ乗り越えれば、使っている文字は日本語と近いので、以降はハードルが低いような気がします。また、韓国語は総じて楽だ、という話は聞きます。ロシア語やスペイン語は履修者が周りにいないので、分かりません。

## 〈学士基盤科目〉

学士基盤科目は、選択必修科目の1つです。選択必修科目とは卒業要件にて「具体的な授業の指定はないけど、科目番号がXXXX番から始まる授業を○単位以上取ってね」という指示の対象となる科目を指します。例えば、比文の卒業要件だと学士基盤科目について「科目番号が12番か14番から始まる学士基盤科目の授業を1単位以上取ってね」と解釈できます。

移行するか分からない学類の卒業要件まで考えて、時間割を組むのはキャパオーバーな気もしますが、**総合生は、学類生なら1年次で習得する単位を2年次以降に回収しないといけなくなる可能性が大いにあります**。1度くらい移行を希望する学類の卒業要件を見ておいても損はないでしょう。また、アカデミックサポートセンター(以下、アカサポ)は入学以降、総合生を全面的にバックアップしてくれる組織ですが、そこから入学直後に配られる「履修・移行ガイドブック」には、「学類生が1年次で習得するけど、応募要件にならない」単位を冒頭の方で学類ごとにまとめてくれたページがあります。そのため、希望度の高い学類に関してはそのような単位も抑えられるようにすると良いです。卒業要件のページも難読なので、もし卒業要件で疑問に思うことがあればアカサポに行ってみるのも良いです。

## □みんなで創ろう「つくばアクションプロジェクト」

○単位数：1.0

○担当教員：加賀 信広、李 健實

○成績評価方法：選択式レポート課題50% + グループによる発表30% + 授業への参加状況20%

○授業形態：対面

○授業の方法：講義(だが、演習系の授業に近い)

○私の成績点：45D

○レビュー：

秋学期に唯一単位を落とした(以下、落単)授業です。選択式レポート課題で重大な誤解をしており、レポート作成、提出ができなかったために落単しました。この「重大な誤解」とは「選択できると思っていたレポートが実は選択できなかったこと」と「締切期限について」でした。

しかし同様の誤解をしていた人は少なくありませんでした。これでは、誤解をした当人以外にも原因がありそうです。考えるに、担当教員の伝え方に一因があると思っています。筑波大学では、日本語が母語でない先生が日本語で教鞭をとる授業が複数あります。しかし、**日本語運用能力には各人で差があり、また(ネイティブ、非ネイティブ関係なく)manabaといったオンラインツールの運用能力にも差があります。**本講義を担当した教員の方は流暢な日本語を喋られました。日本語で微妙なニュアンスを伝えるのが難しかったがために起きてしまった事故だと思えます。本授業は春学期にも開講されていますが、担当教員曰く、選択式レポート課題の誤解が相次いでいたようで、落単者も相当数いた模様です。もしかしたら今は改善されているかもしれませんが、教員から学生への配慮が自分にとって十分であるか、というのも受講において意外と大事なポイントかもしれません。ちなみに筑波大学はモジュール初めの1週間は履修を変更することができるので、第1回の授業を受けてみて、合わなそうなら履修を取り消すのがベターです。

#### □筑波大学特別講義 一大学と学問一

○単位数：1.0

○担当教員：柏木 健一、佐野 隆弥、山田 一夫

○成績評価方法：小レポート90% + 質疑応答への参加等による授業への積極性10%

○授業形態：同時双方向、たまに対面

○授業の方法：講義(オムニバス方式)

○私の成績点：89A

○レビュー：

私がこの2つの学士基盤科目を受講したのは先輩から「頑張れば頑張るほど顕著に高得点が取れる科目」と紹介されたからでした。「つくばアクションプロジェクト」の授業も確かに、模範的に授業を受講していたら選択式レポート課題以外の点数は高得点でしたし、本授業も例に漏れずそうでした。また、先輩曰く「人間系の先生は評価が優しい」とのこと。総合生にとっては「楽に単位が取れる授業」よりも「高得点が取りやすい科目」こそ楽単かもしれません。

## 〈コラム1：科目番号〉

学士基盤科目で科目番号の話について触れましたが、科目番号はやみくもに振られている訳ではありません。しっかり規則に則って設定されているのですが、その規則を私たちは履修要覧で知ることができます。履修要覧はオンライン上でも公開されており、学群履修要覧(<https://www.tsukuba.ac.jp/education/ug-courses-directory/2024.html>)から右にある年度のリストを自分の入学年度に合わせることで、入学後に配られる紙媒体のものと同じものを確認できます。科目番号の意味を知っておいても移行に有利になる訳ではありませんが、科目番号のページを辞書代わりに使えば、場合によっては履修したい単位を効率的に探せます。例えば「学士基盤科目を1つ以上履修しないといけないけど、どの科目が学士基盤科目か分からない!」という場合、どのように検索すれば良いのでしょうか?確かに、KdBの絞り込み機能を使えば容易に検索できますが、最初のうちはその扱いですら難しいと感じる人もいるのではないのでしょうか?そんな人は履修要覧の「筑波大学開設授業科目の科目番号指定について」のページで調べてみるのもアリかもしれません。これもこれで最初のうちは見方が分かりにくい気もしますが、学士基盤科目の科目番号が12番か14番から始まる科目だと分かったら、それをKdBや「KdBっぽいなにか」にそれぞれ入力すると学士基盤科目のみがラインナップされます。慣れると「この授業はここがこの番号だから、演習系の授業なのか」「これは最初がAから始まるから人文・文化学群の授業だ」とシラバスを見ずとも、分かる情報が増えます。是非、有効活用してください。

## 〈専門導入科目〉

「履修登録フローチャート」の記事で、「総合生は専門導入科目の抽選で優遇されている」旨の文言があったと思います。しかし、移行後はその恩恵に授かれなくなるので、1年生のうちにその特権を使っとくのに越したことはありません!専門導入科目のなかで、興味があるものやおすすめされて履修する気が少しでもあるものは迷わず、事前登録をしましょう。移行後は1度も抽選に当たったことはありませんが、私が1年生の時は1度も抽選に漏れたことはありませんでした。

以降も授業紹介をしていきますが、「専門導入科目レビュー」で触れられた科目に関しては割愛させていただくのでご了承ください。

### □システムと情報科学

○単位数：1.0

○担当教員：山口 佳樹、山際 伸一、佐藤 聡、西出 隆志、大山 恵弘

○成績評価方法：manaba上で課される演習ドリルと小テストを総合的に評価。

○授業形態：オンデマンド

○授業の方法：講義(オムニバス方式)

○私の成績点：93A+

○レビュー：

受講したきっかけは過去問を手に入れたからでした。小テストもmanaba上のもので、授業の資料やその過去問を助けに解くことができます。しかし、**だからといって過去問通りの問題が今年も出題されるとは限らないことに注意が必要です**。確かに過去問通りの回もありましたが、一部の回は問題が全く変更されていました。私は文系ですが、数学が好きな方でしたので、授業内容の理解に困ることも少なく、小テストもしっかり考えなければいけませんでした。それでも相応の点数を取得できました。オススメの授業ですが、数学アレルギーの人が履修するのは注意が必要です。

### □文化科学領域比較文化研究

○単位数：1.0

○担当教員：廣瀬 浩司、濱田 真、山口 恵里子、海後 宗男、対馬 美千子、白戸 健一郎、山口 有梨沙

○成績評価方法：期末レポート60% + 授業内提出物40% (4点×10回)

○授業形態：オンデマンド

○授業の方法：講義(オムニバス方式)

○私の成績点：95A+

## ○レビュー：

体感ではあるが、比文は高得点をくれがちな先生が多いので「比較文化研究」シリーズは高得点の単位を作りたい人にもオススメできます。専門導入科目は授業の深度について、概論科目よりも手前という位置付けであり、先生方もそれを踏まえての授業展開、成績評価をしていると思われます。

期末レポートは興味を持った回を1つ選んでそれについて執筆する、というもの。授業内提出物とは、所謂「リアクションペーパー(感想文)」(以下、リアペ)のことですが、出席確認も兼ねているのでリアペを4回以上、出し忘れると他の回で提出していても、強制的に落単となり、これを**欠格**と言います。

オムニバス方式の授業は回ごとに担当する先生が変わるのが基本なため、回ごとに授業が独立しています。よって回を跨いだ複雑な成績評価を実施するのが都合上、難しく、欠席した授業があっても弊害が小さめです。強いてできるとすれば、テストを成績評価方法に参入して、大問ごとに問題作成の担当を振り分けるなどがありますが、この場合は単位修得に必要な労力が一気に増える傾向が高いです。そのような授業を履修する場合は覚悟してください。

次に紹介するのも「比較文化研究」シリーズですが、分野がそもそも興味のあるものだったことと、成績評価方法がより私向きでしたので、本授業の方が高い成績点になったと考えています。

## ○お役立ち情報：欠格要件

出席要件とも言います。これは「授業の出席が2/3を下回る場合は単位を与えない」という筑波大学の規則です。つまり、全10回の授業は4回以上休んだら、全15回の授業は5回以上休んだら、強制的に落単となります。

また、「出席点」という言葉がありますが、「出席しただけで成績点を与えること」を筑波大学は禁止しています。そこで頭を過ぎるのが「リアペは大丈夫なの？」ということです。確かに、リアペは出席確認の機能も備えています。同時に授業態度の確認という機能もあります。恐らく、後者の側面があるからこそリアペで点数を与えることを禁止できないのでしょう。

しかし、中にはリアペを「出席確認の機能のみ」のもののみなし、成績点に参入させない授業もあります。授業としては知識情報概論が代表的です。出席確認を兼

ねているリアペに点数がある限り、学生は簡単に休むことができません。その提出は成績点に直結するからです。しかし、成績点に含まれない「出席確認のみのリアペ」は3回まで提出しなくても、欠格要件に抵触しないので問題ありません。こんなことを考えている時点で大半の総合生に怒られそうですが、怠惰な人間としては、肩の荷が軽くなったように感じるので、「出席確認のみのリアペ」も悪くないなと思います。しかし一方で、「出席確認のためだけに出すのはだるいなあ」と思う人もいれば、「何も感じない。出して当たり前。」という人もいるでしょう。筑波大生は後者の人が多い偏見があります。

#### □英米・ヨーロッパ領域比較文化研究

○単位数：1.0

○担当教員：佐藤 千登勢、増尾 弘美、加藤 百合、竹谷 悦子、秋山 学、佐野 隆弥、宮崎 和夫、津田 博司、阿部 幸大、馬籠 清子

○成績評価方法：期末レポート60% (30点×2) + 授業内提出物40% (4点×10回)

○授業形態：オンデマンド

○授業の方法：講義(オムニバス方式)

○私の成績点：81A

○レビュー：

これは「先生が高得点くれがちなことでも有名な科目」と先輩に紹介されたのをきっかけに受講した授業でした。曰く、加藤先生、秋山先生、宮崎先生が高得点くれがちらしいです。

先の授業と同じ「比較文化研究」シリーズですが、違うのは期末レポートを2つ執筆しないといけないことです。私が受講した年のレポート最低文字数は900字だったと思います。しかし、これは人によっては、好みが出る場所かもしれません。前者の授業は1つのことについてしっかり書くタイプだし、後者は、分量は少なくなるが、興味の幅が前者よりかは求められています。

前者の方で「成績評価方法がより私向き」と述べましたが、それは私が「興味がないと取り組めない」系の人間だからです。授業を履修するうちに、そういう自分の傾向も掴めていくと良いかもしれませんね。

## 〈コラム2：学生はどんな成績評価方法を好んでいるのか？〉

高校と違って、大学の授業の成績評価方法は様々です。主にレポートかテストのどちらかですが、それらを実施する頻度も、それらが成績点に占める割合も、授業でバラバラです。しかし、それでも学生各々の好みや得意不得意は表れるもので、それについてGoogle Formを使って調査してきました。以降はGoogle Formに寄せられた、成績評価方法のメリット・デメリットを、人気順に紹介します。

### □①授業ごとに課される課題(小テスト、小レポート、respon)

小テストとは、期末テストと違って授業ごとに課されるテストのことを指しています。つまり、成績点のうち、「授業ごとに課される課題」で評価される科目の方が好まれやすい、ということです。

小テストの1番大きなメリットはmanabaと過去問の相性の良さでしょう。また、ペースメーカーとしても有能で、期末テストに比べてずっと勉強が楽、なんならテスト勉強自体、必要ないという声まで見られました。また、期末テストや期末レポートは実施日・提出日が集中してしまうので、そういう意味で期末系の課題に追われている期間に負担が少ない小テストはありがたがられます。小レポートやresponも授業ごとに課される課題なので、書ける内容に限界があり、かかる負担も時間もとても軽いです。

しかし、「お役立ち情報：欠格要件」でも触れましたが、小テストや小レポートは出席を兼ねている場合があり、1度提出し忘れると点数を失うだけでなく、欠席回数が1回増えてしまう可能性があります。

几帳面な人やコツコツ励むのが苦じゃない人には、これ以上ない方式ですが、怠惰な人間にはちょっとリスクが大きい方式な気がします。結果から分かる通り、筑波大生はまめな人が多いイメージです。

### □②期末テスト

自律的に取り組む必要があり、長期的な努力が欠かせないのが大変なところです。しかし、自分の立ち位置が把握できたり、レポートに比べて成績点の付け方が比較的明確だったり、意外と良いところがあります。また努力した分は、しっかり点数として反映されるという信頼があります。

### □③期末レポート

意外にも期末テストよりも不評な方式でした。これは「レポートに慣れていない」というのが大きな理由そうです。テストを解いて成績をつけられる機会が多かった元「生徒」にとって、レポートは何を書けば良いのか分からない未知の代物。また事実、成績も教授の裁量によるところが大きいので、テストと比べると、成績評価方法が不明確です。そこに不安感を抱く人は少なくありませんでした。

一方で、レポートを書くのが元々得意な人間にとってはそんな心配は薄いです。最低文字数も比較的容易に超えてしまいます。期末課題なので、期末が忙しくなる一因にはなってしまいますが、私は怠惰な人間なので小レポートでコツコツよりも、期末レポートで全集中の方が心は軽かったです(提出に10秒間に合わなくて落単してしまった単位もありましたが)。

レポートの文字数が比較的簡単に超えてしまう人間のアドバイスとしては、「レポートは如何に自分の経験と結びつけて書けるか」がポイントです。読書感想文と同じ要領です。読書感想文が苦手な人は「読書感想文はあらすじを書くものじゃないよ」とよく言われたと思います。私もよく言われました。確かに、大学のレポートは事実をまとめることも大事ですし、特に理系科目のレポートはそういう趣旨のものが多いと思います。しかし、1年次、こと文系に課されるレポートは、授業を経て「考えたこと」「思ったこと」を共有する側面もあります。興味を持った部分、深く感情を動かされた部分を掘る際は「なぜそう思ったのか?(きっかけとなる原体験)」を書いてあげると小レポートくらいはすぐ埋まります。原体験との類似性から考察まで発展させられると上出来です。他には5W1Hを意識した記述も有用です。是非、参考にしてください。



## 〈コラム3：空きコマの埋め方〉

必修、応募要件、重点科目も履修登録すれば時間割は完成です。ですが、1限と3限が空いていたり、年間履修上限に全然余裕があったり、もうちょっと何かの授業で埋めたくないですか？それこそ、自分の興味がある授業とか楽単とか…でも既に履修登録した授業と被るものは履修できない…そんな時に役立つのが「KdBっぽいなにか」です。

「KdBっぽいなにか」というサイトでは空きコマを複数選択すれば、履修できる授業をラインナップしてくれる機能があります。「曜日・時限」の「選択」ボタンをクリックすると画像右下のような時間割が出現します。そこで授業を探したい時限をクリックすれば、その時間に開講している授業をピックアップしてくれます。勿論、「要件」から更に絞り込みをかけることも可能です。是非、有効活用してください。

## 〈その他〉

### □先端文化化学概論

- 単位数：1.0
- 担当教員：山口 有梨沙
- 成績評価方法：レポート60% + 授業内提出物40%
- 授業形態：対面
- 授業の方法：講義
- 私の成績点：85A
- レビュー：

授業内提出物の割合が高いですが、私が履修した時はキーワードをmanabaの小テスト機能を通じて提出するだけの回が殆どだったので、とても負担が軽かったです。また、山口先生はEPSの担当教員でもあり「提出期限に間に合わなかったりしても、諦めず、まずはメールを出してみましょう」というアドバイスをくれた人でした。優しいですし、しっかり取り組めば高得点をくれる先生です。あとめっちゃ可愛いです。

### □日本研究概論1

- 単位数：1.0
- 担当教員：長尾 宗典
- 成績評価方法：期末レポート80% + 平常点20%
- 授業形態：対面
- 授業の方法：講義
- 私の成績点：？
- レビュー：

長尾先生はとても丁寧に授業をしてくれる印象です。話も面白く、他の学生からも好評です。しかし、課題の量としては特段、軽いと言える人ではないと思います。かといって重すぎもせず、普通です。高得点を出し渋る人でもありません。本当は試験内容や成績点についても具体的に言及したいのですが、manabaのフィードバックに「そのような行為はダメ！」と記載があった覚えがあるので、控えます。それくらい丁寧な人です。

## □日本語学概論-b

○単位数：1.0

○担当教員：菅野 倫匡

○成績評価方法：各回の課題に対する取り組みの内容30% + 期末課題の内容70%

○授業形態：オンデマンド

○授業の方法：講義

○私の成績点：79B

○レビュー：

とある回の課題には、言語学の研究で実際に使われているツールに手を出してみ、その成果を共有するものも。実践的な課題なので感想を書くよりかは重いかもしれませんが、授業もスライドを効果的に使っていて分かりやすかったです。記憶が曖昧なので、具体的な言及は控えさせていただきます。

## 〈おまけ〉

コラム2で出てきたGoogle Formですが「単位を取りやすい科目」「高得点を取りやすい科目」についてもアンケートを行なったので、その結果を共有しておきます。

また、今までの記事の内容から分かったと思いますが、「学生としてしなければいけないことをする」ということができれば、文系科目で落単することはほぼあり得ませんし、高得点も殆どの科目で狙えます。「学生としてしなければいけないこと」とは、授業に欠席しない、提出物を期限通りに出す、前もって取り組んでミスがあっても回収できるようにする、です。これさえ守れば実は優等生間違いなしなのです。

記事担当：嶋田 眞帆  
編集担当：小野里 湊徠

### □単位を取りやすい科目

- 地球進化学1
- 地球環境学1
- 知識情報概論
- 障害科学1・2
- 図書館概論
- 国際学1・2
- 共生のための人類学
- コンテンツ入門
- 個別言語学入門
- 言語分析入門
- 先端文化学概論
- 筑波大学特別講義 ―大学と学問―
- システムと情報科学
- 日本研究概論1
- 「共生のための」シリーズ
- 工学システム概論
- おもてなし学
- オンデマンドの授業
- 「最前線」シリーズ(法学除く)

### □高得点を取りやすかった科目

- 共生のための人類学
- 地球環境学1
- 知識情報概論
- 言語分析入門
- 個別言語学入門
- 地球進化学1
- 工学システム概論
- 日本国憲法
- システムと情報科学
- 国際学1~4
- 数学リテラシー1・2
- 法学の最前線(課題の量は鬼だという噂です)

